

# 中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会岡山支部

## 救済支援地道に10年

全国組織「中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会」の岡山支部（岡山市北区春日町）が今月、発足から丸10年を迎えた。相談会などを通じて被害者を掘り起こし、不安の軽減や公的な救済制度へつなげる活動を地道に続けてきた。アスベスト

（石綿）関連疾患の発症者は今後増える恐れがある一方で、社会の関心の低下に伴う新たな会員の減少や活動の先細りが懸念されており、いかに打開していくかが課題となっている。（柏谷和宏）

「会への参加は、生き続け 美咲町上間の荒内浩二さん(57)は話す。石綿関連製品の工場近くで幼い頃を過ごすための目標の一つ」



石綿被害を巡り集会で情報交換する岡山支部の会員＝2015年5月、岡山市

を引き起こすことが判明。75年の吹き付け石綿禁止、95年の青石綿、茶石綿の製造・輸入・使用の禁止など段階的に規制され、2006年に使用が全面禁止となった。

**ズーム** アスベスト 極細繊維からなる天然鉱物で、安価で耐火性に優れる。1974年が輸入ピークで70～80年代に広く使われたが、吸い込むと中皮腫など

0年に石綿が主な原因とされるがん・中皮腫と診断された。翌11年に右肺を摘出し、将来の不安からふさぎ込んでいたが、支部の存在をインターネットで知り、12年春に初めて例会に参加した。労働災害に該当しない被害者を対象とした石綿健康被害救済法(06年3月施行)に基づき給付は受けていたが、障害厚生年金も受給できると関係者に教わり、経済的な支えとなった。今年2月には支部を通じて広島県の中皮腫患者と出会い、勇気をもらえたという。

### 活動継続へ会員増課題

岡山支部は父親を中皮腫で亡くした山本和代さん(51)＝岡山市南区＝が世話人となり、全国11番目の支部として08年4月6日に発足。以降、石綿の健康被害に関する相談会を兼ねた集会を年3回開き、石綿を吸い込む恐れがある仕事の経験者らに、県内の労働者支援団体のスタッフや社会保険労務士らが労災や救済法に基づく給付の申請などを助言してきた。

「労災認定や健診を無料で定期的に受けられる制度の利用に毎年数人ずつがつかっている」と事務局の足田正義さん(73)。

労災補償と格差がある救済法の給付拡充を国に求めるなどの活動にも、他県の支部と共に取り組んでいる。

岡山支部は5月12日の午前10時から相談会、午後1時から総会と中皮腫患者による講演会をオルガホール(岡山市北区奉還町)で開く。無料。問い合わせは同支部(086-266-8008)。

岡山支部は父親を中皮腫で亡くした山本和代さんは数人。会員で当事者は数えるほどになり、同じ悩みを共有したいと参加する人の思いに沿いづらくなっている。

石綿疾患に詳しい岡山労災病院(岡山市)の岸本卓巳医師(前副院長)によると、中皮腫や石綿による肺がんは30～50年の潜伏期間があり、使用が禁止された時期から考えると発症者は今後増える見通し。建物の解体の際、作業員や近隣住民が新たに石綿を吸い込む恐れも危惧される。

今後とも少なからず役割が求められる中、支部は病院に案内しを置くなどして相談に訪れる人や会員が増えるよう努めている。山本さんは「誰にも相談できず、悲痛な思いをしている人たちの心のよりどころになれるよう活動を長く続けたい」と話す。